

8月19日（島原半島中高入試連絡協議会にて学校説明冒頭あいさつ）

### 「これまでとこれから・・・模索する口加」

私が教員になったのは、ちょうど昭和から平成にかわる時代で、そのころ耳にたこができるほど聞かされたコマーシャルソングがあります。「24時間戦えますかジャパニーズビジネスマン」という歌です。リゲインという栄養ドリンクのコマーシャルです。

あの頃はモーレツ社員とか企業戦士が日本を闊歩していた時代でした。歌詞の2番は「はるか世界で戦えますかジャパニーズビジネスマン」と歌っています。当時はまだ世界ははるか遠くにありました。今や世界はすぐそこにありいつでもつながっています。当時はまだスマホはなく、インターネットも普及していませんでした。30年という時間でこれほどまでに大きく社会は変わったのです。

今から30年後はどうなっているのか。働き方も暮らし方も大きく変わっていることと思います。今の中・高校生は40代半ばになっています。まさに令和という時代は、今の中学生や高校生が主役となる時代です。これからの社会はどうなっていくのか、誰にも予測はできませんが、私たち教員はこの変化の風にアンテナを張って、生徒たちに何を伝え、どんな力をつけなければならないのか、私たちは模索しています。卒業後の進路を確定するだけにとどまらず、どんな武器を持たせて送り出すのか、私たちは試行錯誤しています。武器とは何か、教科学力、主体性、チャレンジ精神、行動力、失敗してももう一度前を向いて歩き出す力・・・沢山あります。それらを全て私たちは「学力」と捉えています。

かつてこういうお医者さんがいたそうです。自分が手術をした患者さんを10年、20年経って訪ね歩いた外科の先生です。患者さんが退院して行かれることが自分の仕事が終わりではなく、10年、20年経っても元気に生活していらっしゃることを確認して、自分の外科医としての仕事を振り返っていらっしゃったのだらうと思います。

教員も同じだと思います。教育の真価が問われるのは卒業した後です。進路を決めて、卒業をさせることが仕事ではなく、卒業して数年、十数年経って、「口加高校で学んでよかった」生徒たちにそう言われる学校でありたいと思っています。一人でも多くの生徒に将来、「口加高校で先生に出会えてよかったよ」と言われる教師でありたいと思います。

「島原半島の最南端にある最先端の学校」と言われるよう、私たちは日々精進です。